



File  
15

## 日豊製袋工業株式会社

- 所在地：中津市大字今津1101番地の1
  - TEL：0979-32-0200
  - 事業内容：PP、PEコンテナバッグ  
および各種包装容器の製造販売
  - 雇用人数：健常者41人 障がい者23人
- 沿革：1962年 県工業化促進条例の適用を受けて発足
  - 1966年 現地に本社工場新築・移転
  - 2000年 財団法人日本舶用品検定協会より  
危険物容器検査の性能試験設備適合工場に認定

### 障がい者雇用はトップの考え次第

### 仕事を通じて個々の特性を見出し、その能力の伸ばし方がカギ

#### 現在の障がい者の雇用状況等について

##### ■ 雇用している障がい者の状況

知的障がい者17人、聴覚障がい者、身体障がい者6人が勤務。記憶力に優れた人、ひとつの作業を黙々と続けられる人など、一人ひとり異なる特徴を持つ障がい者が共に働いている。



##### ■ どんな仕事をしているか

産業用包材の製造工程の中で、それぞれの障がい者が持つ特性を活かせる配置を1年ほどかけて見つけ出し、作業をしている。

機械に興味を持ち、今では担当になっている知的障がい者、また集団での作業が好きな人。これらの特徴を持つ障がい者と健常者が一緒に作業に取り組み、成果を上げるよう日々努力している。



取っ手を付け易く改良されたマシン

#### 障がい者を雇用して良かった点

会社を無断で欠勤しない。同じ仕事を続けていてもあまり飽きがない。仕事に忠実で、熱心に取り組んでいる。同社では長い年月を費やして障がい者を育てており、健常者と障がい者が2人1組になって作業をしている。高齢の健常者には経験はあるが力はないので、それを力のある若い障がい者が補うという、持ちつ持たれつの関係がよい形で形成されている。

#### コメント

##### ■ 障がい者雇用担当者

総務 友松 江利子さん

働きぶりなど健常者と変わるところはありません。同社にとって障がい者は長い年月をかけて育ててきた“戦力”なので、なくてはならない存在です。

障がい者のサポートは一緒に働く健常者に任せていますが、皆さんの努力と理解のお陰で役割分担ができ、仕事は順調です。



##### ■ 現職障がい者

マシン担当 岩久 茂史さん

仕事は楽しく、会社の雰囲気はとてもいいです。ベルト付けの作業を担当していますが、もっと経験を積んで、将来はベルト付けの指導者になることを目標に頑張っています。

社内に友人もでき、休日は一緒に遊んだりします。また竹ではしを作ることやサイクリングが趣味です。



Let's Open up  
the future together  
OITA  
2008

#### プロセス

STEP 1

##### ■ 雇用スタート時の状況・雇用を始めようと思ったきっかけ

同社が障がい者を初めて雇ったのは30年以上前。前社長（現会長・友松研二氏）が近所の知的障がい者の、「言われたことをずっと続ける忍耐力」に気が付き、アルバイトとして雇い入れたのがきっかけ。

会社設立と同時に彼を正社員として雇用。その人に合った能力を引き出せば十分働けると考え、その後も障がい者を次々と雇った。



障がい者が扱う目打ち機械

STEP 2

##### ■ どんな問題点にぶつかったか

人数が増えることで様々な特徴を持つ方々が入り、手探りの状態だったので当初はいろんな苦労があった。

ある年には、脳の半分が完全に機能しておらず、医師も「労働は不可能」という人を雇い入れたが、一日中ただ突っ立ったままで、どう指導していいか悩んだことも。

また知的障がい者は年に1、2度、必ず1週間程度休んだり、出勤してもまったく働けなかったりする時期があるなど、いろいろな壁にぶつかってきたが、彼らを一人前にすることに必死だった。

STEP 3

##### ■ それに対してどんな改善策を取り、工夫してきたか

###### ①うまくいっているところ

そんな障がい者の特性を見だし、能力を判断するとともに、この子にはどんな職場環境が必要なのかを見極め、居場所を早く作ってあげる。また、職場内のそれぞれのエリアで「棲み分け」をしているのに、他の障がい者が入ってくると喧嘩になるので、常に見守ってあげることが大切。

脳の半分が麻痺していた人には、社内の清掃作業を教え、次にミシンを縫う工場長の前に立たせ、布を引っ張る作業を繰り返し、繰り返した。やがて彼女は仕事を覚え、生活面でも大きな変化が見られるようになった。今や彼女も大事な戦力の一人に成長。根気よく指導することも必要。

###### ②現在の社内でのコミュニケーション

毎朝および就業時にあいさつをする。また毎日日誌を提出してもらい、それに目を通して。たとえ字が書けなくても、心の変化があったときは必ず日誌に何らかのサインとなって現れる。

###### ③サポート体制

健常者の従業員のうち、6人に障害者職業生活指導員の資格を取得していただいている。彼らを中心に、健常者の従業員全員が、障がい者の仕事面はもちろん、日常の世話の手助けをサポートしている。

「障がい者を受け入れる」という会社の方針がすべての従業員に伝わっていることが第一だが、健常者の深い理解を得られることが大切。

#### 社内環境

年に1、2回、日帰り旅行に出かける。その際、小遣いを必ず持たせ、買い物体験させる。そうすることでお金の大切さ、使い方を学んでいく。今では自分で外出して買い物できるまでに育った知的障がい者も。

